



5年連続で「1等級比率90%以上」を確保しよう!

平成29年の中越地域における水稻の作柄は、「作況指数91(不良)」となり、近年にない不作の年となりました。この要因の一つとして、初期生育の遅れから後発分げつが多発生し、“茎質低下”を招いたことが収量に大きく影響しました。そこで、平成30年産米は、計画的な育苗作業を実践し「良質茎の早期確保」を目指した健苗育成に努め、全地域で目標収量(契約数量)の確保と、5年連続1等級比率90%以上の高品質米生産に取り組みましょう。

平成30年 重点技術対策

☆ 健苗育成 ☆
適期田植に合わせた適期播種
適正播種量、的確な温度管理
による健苗育成

1. 育苗準備

品質・収量の安定のためには、適正生育量の早期確保(良質茎の早期確保)が欠かせません。健苗育成によるスタートダッシュが肝心です!



(1) 育苗ハウスの準備

- ◇ いもち病やばか苗病の感染源となる稲わらや籾殻は、育苗ハウス内・近辺から除去しましょう。また、育苗床土へのくん炭混和や育苗時の敷材としての使用は避けましょう。
- ◇ ビニールを早めに張ることでハウス内を乾かすとともに、ハウス内を暖めておきましょう。

(2) 育苗資材の準備

育苗病害発生防止のため、育苗資材の消毒を徹底するとともに、被覆資材の特性を理解した上で、的確な育苗管理をしよう!



① 被覆資材

時期	上資材	下資材	保温性・保湿性	注意点
出芽期	シルバーポルトウ#80	ミラシート	高	晴天時は温度が上がりやすい(※ミラシートの一重は特に注意)
		ラブシート		
緑化期	シルバーポリを剥ぐ(低温時は二重被覆)	ミラシート	低	乾きやすい
		ラブシート		

- ※ “太陽シート” を利用することにより、出芽期から緑化期の換気作業を省くことができます。
- ※ 外気の影響を受けやすく苗の成長が遅れている所には“サイドほっとネット”を活用して下さい。
- ※ 被覆資材の特徴を理解した上でハウス管理を行って下さい。劣化による保温性・保湿性の低下はヤケ苗、発芽・生育不揃いの発生を助長するので、定期的に更新して下さい。

② 育苗資材の消毒

薬剤名	散布時期	留意事項
イチバン	“土つめ前”(育苗箱、出芽室、被覆資材等の消毒)	1 作業場などは清潔にしてから作業する。
		2 イチバンの散布は資材が十分に濡れる程度とし、残液処理は種子消毒剤残液処理方法にしたがう。
湿熱消毒		3 湿熱消毒は蒸気出芽施設を利用し、60℃1時間以上の処理とする。

(3) 野ネズミ対策

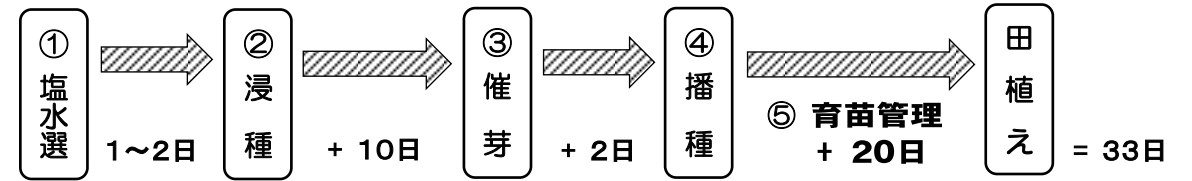
昨年、野ネズミ被害にあったハウスでは、忌避剤・殺そ剤による防除を徹底しましょう。畑や河川周辺のハウスは、特に注意が必要です。



2. 播種計画

軟弱徒長・老化苗防止のため、“各品種別に適正な作業計画を作成し、田植えに合わせた適期播種(育苗日数20日程度)、適正播種量、的確な温度管理による健苗育成”を徹底する。

(例) 4月2日 4月3日 4月13日 **4月15日** 5月5日



無加温育苗の場合

田植え 月 日

【品種別田植え計画の策定】

育苗期間 20日

播種 月 日

◇ 適期田植えにあわせて適期播種、適正な播種量の徹底による健苗育成に努めて下さい。

【播種量目安】
コシヒカリ: 乾籾 140g/箱 (催芽籾約 175g/箱)
育苗期間: 20日 (加温 18日)

60株植え(18箱/10a使用)の場合では、140g×18箱= **種籾 2.52kg/10a** 必要です!

酒米等大粒品種の場合は150g/箱播きで!

催芽 月 日 期間: 2日

◇ 催芽温度が30℃を超えると、細菌性病害が発生しやすくなるため、**催芽温度は28~30℃**を徹底し、**日数は1~2日**を目安として下さい。

◇ 「コシヒカリ」「五百万石」などの発芽しにくい品種は、**催芽不足にならないように注意し、必ず発芽状態を確認してから催芽を終了**して下さい。

◇ JAから供給される種子は温湯消毒済ですが、薬剤防除に比べ褐条病等に対する防除効果が劣ります。**タフブロックによる消毒処理を行って下さい。**

使用区分	使用資材名	使用基準	備考
種子消毒	(温湯消毒)	-	60℃の温湯で10分、15℃以下の冷水で6分冷却処理
	タフブロック	200倍液に24時間浸種	いもち病・ばか苗病・苗立枯病ほか・催芽時処理

タフブロックによる種子消毒は、催芽前処理も可能ですが、催芽時に比べると効果が劣ることがあるため、**催芽時に使用して下さい!**

浸種 月 日 期間: 10日

◇ 発芽揃いを良くするため、**浸種水温は10~15℃**とし、**十分な水量(種子容量の2倍程度)**で積算温度**100℃**を目安に行ってください。

特に、**浸種開始時の低水温(10℃未満)**は、**発芽揃いを悪くする**ので避けて下さい!

塩水選 月 日

◇ より充実した籾を選別するために、**塩水選**を行って下さい。

◇ 溶液の中に籾を入れる際は、籾についた気泡を落とすため、棒などでよく攪拌して下さい。

区分	比重	水100g当たりの食塩の量
うるち種	1.13	1.9kg
もち種	1.08	1.1kg

注) ゆきみのりは、ふ割れしやすい為塩水選は行わない

※ 塩水選後は“水洗い”を行う。

ポイント

初期分げつを早期に確保する為、健苗育成に努めましょう!

~~営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ~~

次回稲作情報: 3月下旬「健苗育成のポイント(適期播種・ハウス管理)、作土深、基肥施肥」(予定)

新潟県「特別栽培農産物（米）認証基準」とJA越後さんとう「肥料・農薬 使用基準」

☆JA越後さんとう管内で生産される米穀は、使用する節減対象農薬・化学肥料（窒素成分）について従来（慣行）の栽培基準よりも「5割削減した栽培」に取り組みます。

《新潟県における「地域慣行栽培基準」と「特別栽培農産物（米）県認証基準」》

地域区分	品種 (適用品種)	節減対象農薬使用回数 (成分回数)		化学肥料使用量 (窒素成分 kg/10a 以下)	
		慣行栽培基準	県認証基準	慣行栽培基準	県認証基準
長岡地域	コシヒカリ BL, こしいぶき 契約栽培こがねもち	18回	9回以下	6kg	3kg以下

《JA:使用肥料基準》 → 「化学肥料使用量（窒素成分）3kg/10a」の範囲内で栽培します。

使用区分	品目名	使用量の目安	化学合成由来窒素成分 kg/10a	成分 (%)			摘要		
				窒素	うち有機	リン酸		加里	
育苗	* 稚苗苗代配合	30g/箱	0.024	4		6	5	20箱/10a	
	ホーネンス培土1号	2.8kg/箱	0.026	0.046		0.046	0.046	20箱/10a	
	ホーネンス培土1号Si	2.8kg/箱	0.026	0.046		0.046	0.046	20箱/10a Si 25	
	亜リン酸入りホーネンス培土1号	2.8kg/箱	0.026	0.046		0.046	0.046	20箱/10a	
	くみあい液肥2号	10g/箱	0.020	10		4	8	20箱/10a	
	尿素	2g/箱	0.019	46				20箱/10a	
	べんとう肥	20g/箱	0.032	8		8	8	20箱/10a	
基肥	* ニューほたる有機基肥オール10	30kg	1.470	10	5.10	10	10		
	越後の輝き有機50元肥エコ	30kg	1.470	10	5.10	8	8		
	有機50スーパ-元肥2号	40kg	2.360	12	6.10	7	6		
	越後の輝き有機50スーパ-元肥	40kg	2.360	12	6.10	6	5		
	有機50早生スーパ-元肥2号	40kg	2.360	12	6.10	7	6		
	有機50ニューフレーザー10	35kg	1.750	10	5.00	4	3		
穂肥	* ほたる有機穂肥	25kg	1.250	10	5.00	4	6		
	さんとう穂肥有機	20kg	2.460	14	1.70	1	14		
	味好2号	20kg	-	7	7.00	2	7		
その他の肥料	有機質肥料	醗酵ケイフン	30kg	-	3.6	3.60	4.2	3.3	
	鶏ちゃんパワー	30kg	-	4	4.00	3	2		
	イセグリーン	60kg	-	3.2	3.20	3.3	2.8	石灰18	
	みつパワー	60kg	-					Si 25	
	スーパーシリカプレミアム	20kg	-					Si 27	
	PK08	20kg	-			20	18		
	苦土重焼燐	20kg	-			35			
	けい酸加里プレミアム34	20kg	-				20	Si 34	
	塩化加里60	7kg	-				60		
	マグコープ	20kg	-			17			
ウオーターシリカ	15kg	-					Si 17		
【例】	* 印を標準使用した場合の化学由来窒素		2.744						

※ 上記の使用基準を参考に、使用する資材のトータル化学合成由来窒素成分が県認証基準（コシヒカリ：3kg）以下となるよう施肥設計を行って下さい。

《JA:使用農薬基準》 → 「節減対象農薬使用回数（成分回数）：以下の統一農薬9成分」の範囲内で栽培します。

使用区分	資材名	用途	使用成分数	摘要	
種子消毒	タフブロック	殺菌	—	他の種子消毒殺菌剤との併用不可	
育苗	カスミン（粒剤・液剤）	殺菌	—		
育苗箱処理	パディート（1キロ箱粒剤）	殺虫	1	床土混和可能	
	ツインパディート（1キロ箱粒剤） ※1	殺菌 殺虫	(2)	床土混和可能 ルーチン粒剤との重複使用不可	
本田除草剤	初期剤	メテオ（1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ）	除草	1	一発処理剤との体系処理
	一発処理剤	ベンケイ（1キロ粒剤・豆つぶ・ジャンボ）	除草	3	粒剤田植同時可能
	中・後期剤	クリンチャー（1キロ粒剤・EW・ジャンボ） ※2	除草	1	ノビエが発生した場合に使用
	中・後期剤	バサグラン（粒剤・液剤） ※2	除草	1	雑草が発生した場合に使用
本田防除	ルーチン（1キロ粒剤）	殺菌	1	いもち病 予防対応	
	スタークル（粒剤・液剤10・豆つぶ）	殺虫	1	共同防除（カメムシ等）	
			9		

本田防除 (緊急防除)	カスミン（液剤）	殺菌	—	いもち病（緊急防除）
	バリダシン（液剤5・粉剤DL）	殺菌	—	紋枯病（緊急防除）
	Zボルドー（粉剤DL）	殺菌	—	稲墨黒穂・稲こうじ

※1 ルーチン剤との重複使用は不可となります。

※2 クリンチャーバスME液剤でも可です。ただし、単剤との重複使用は不可となります。

※3 上記以外の品目を使用した場合、一般米（JA米対象から外れる）の取り扱いとなります。

平成30年産米使用基準の追加・変更点について

① 適用品種

コシヒカリ BL、こしいぶき、契約栽培こがねもち

② 育苗（追加品目）

○ 亜リン酸入りホーネンス培土1号

・1箱（培土2.8kg）あたり亜リン酸2号が25gが添加されていることから、既存のホーネンス培土1号よりも根張り・マット形成が良好になります。
→ 苗質が良くなり、特にムレ苗の発生が軽減されます（健苗育成）。

③ 基肥（変更品目）

○ 越後の輝き有機50元肥エコ、越後の輝き有機50スーパー元肥

・平成30年については移行期間として、前年使用基準品（ニューほたる基肥オール10、有機50スーパー元肥2号）と県統一肥料をどちらの肥料を使用してもJA米の使用基準とします

④ 本田防除剤（変更品目）

○ ベンケイ（粒剤、豆つぶ、ジャンボ）

・ベンケイは多年生雑草に効果が高いことや、試験剤の中での除草・抑草効果が高いことなどを踏まえて一発除草剤の切り替えを行います。

⑤ 土づくり肥料（追加品目）

○ みつパワー

・マンガン、鉄、ケイ酸やホウ素、亜鉛、モリブデン等の微量元素を含む土づくり肥料です。
砂質の秋落ち水田にマンガン、鉄、ケイ酸肥料を施用することで土壌改良効果が得られます。